

平成25年（2013）5月 入域観光客数概況

5月の観光客数は、47万7,600人
対前年（H24）同月比 +4万3,300人、+10.0%
～3か月連続で月の過去最高を更新～

入域状況

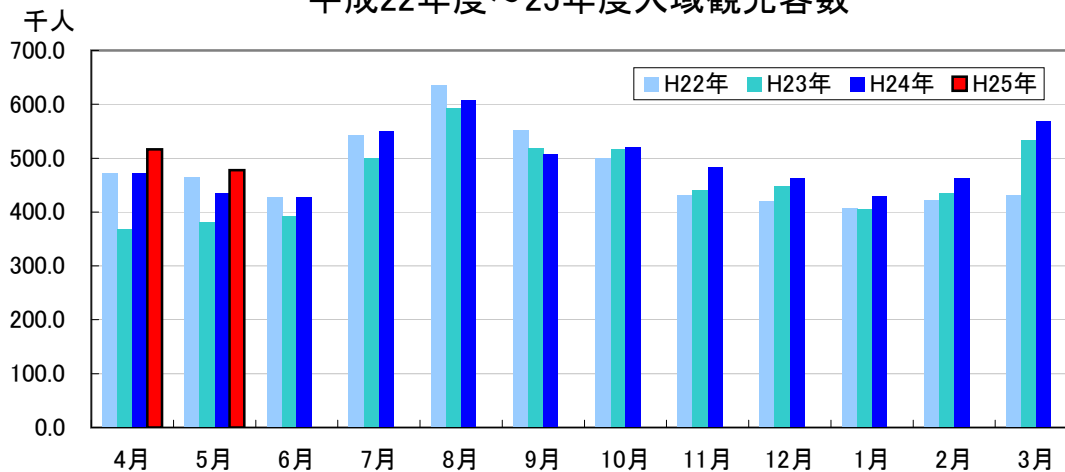
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	87.6%
外国客	59,400 人	40,300 人	+ 19,100人	+ 47.4%	12.4%
合計	477,600 人	434,300 人	+ 43,300人	+ 10.0%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	89.9%
外国客	47,000 人	29,700 人	+ 17,300人	+ 58.2%	10.1%
合計	465,200 人	423,700 人	+ 41,500人	+ 9.8%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



国内客 入域状況

5月は、円安の影響により海外旅行から国内旅行へと需要がシフトしてきており、月間を通して主要方面からの入込客が増加し、好調に推移した。特に、新石垣空港開港に伴う石垣への観光客数は引き続き増加している。

6月以降も、航空便の新規就航や増便に加え、円安の影響による国内旅行への需要シフトが続くことから、好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

5月は、円安の影響による訪日旅行需要が高く、航空路線が拡充された台湾及び韓国を中心に好調に推移した。

6月以降、韓国及び香港では連休や夏季休暇を利用する学生や家族向け旅行の需要が伸びるのに加え、台湾ではチャーター便の就航、既存路線の増便により安定した伸びが期待でき、順調に推移する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	187,000 人	169,000 人	+ 18,000人	+ 10.7%	44.7%
関西方面	100,100 人	93,000 人	+ 7,100人	+ 7.6%	23.9%
福岡方面	51,300 人	49,300 人	+ 2,000人	+ 4.1%	12.3%
名古屋	33,000 人	32,000 人	+ 1,000人	+ 3.1%	7.9%
その他	46,800 人	50,700 人	△ 3,900人	△ 7.7%	11.2%
合計	418,200 人	394,000 人	+ 24,200人	+ 6.1%	100.0%

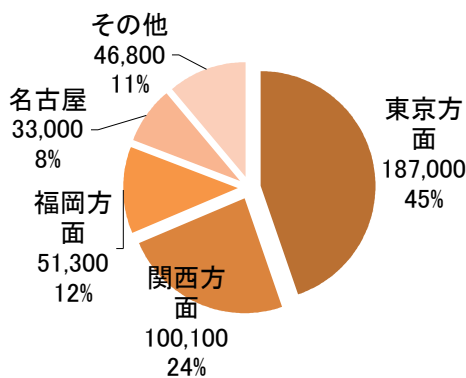
※国内海路客 4,300人を含む(関西方面:1,500人、鹿児島:2,800人)

外国客 国籍別入域状況

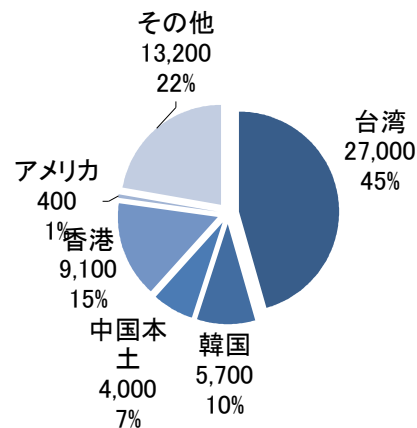
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	27,000 人	27,000 人	17,800 人	+ 9,200人	51.7%	45.5%
韓国	5,700 人	5,700 人	1,600 人	+ 4,100人	256.3%	9.6%
中国本土	1,200 人	4,000 人	6,400 人	△ 2,400人	△37.5%	6.7%
香港	9,100 人	9,100 人	4,700 人	+ 4,400人	93.6%	15.3%
アメリカ	400 人	400 人	500 人	△ 100人	△20.0%	0.7%
その他	3,600 人	13,200 人	9,300 人	+ 3,900人	41.9%	22.2%
合計	47,000 人	59,400 人	40,300 人	+ 19,100人	47.4%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	13,600 人	13,600 人	+106.1%	42.0%	13,400 人	13,400 人	+19.6%	49.6%
韓国	5,600 人	5,600 人	+250.0%	17.3%	100 人	100 人	皆増	0.4%
中国本土	1,200 人	1,200 人	△66.7%	3.7%	0 人	2,800 人	+0.0%	10.4%
香港	9,000 人	9,000 人	+91.5%	27.8%	100 人	100 人	皆増	0.4%
アメリカ	400 人	400 人	△20.0%	1.2%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,500 人	2,600 人	+100.0%	8.0%	1,100 人	10,600 人	+32.5%	39.3%
合計	32,300 人	32,400 人	+77.0%	100.0%	14,700 人	27,000 人	+22.7%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

5月はGW後半が好調であったこと、また、前年同時期には未就航であったLCCの誘客効果や石垣方面へのツアーも好調を維持したことから、前年実績を上回った。6月以降は、本島方面への旅行需要はやや鈍化しているものの、石垣方面や宮古方面への旅行は好調に推移していく見込み。また、沖縄でのメジャーアーティストのコンサートを中心に、イベントによる誘客効果も期待でき、入込客は前年より増加する見込み。

大阪

TDR関連商品が好調な上、沖縄方面への修学旅行シーズンのためパッケージ商品が伸び悩んだにもかかわらず、東京方面同様LCC就航の影響が続き、GW期間中を含め、好調に推移した。今後は、円安の影響により海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしており、7月の旅行商品の予約状況も好調なことから、前年以上の入込が予想される。

福岡

TDR関連商品を含め東日本方面への旅行商品が伸びており、GWを含み月全体で沖縄方面への旅行商品の販売が伸び悩んだ。6月以降もTDR関連商品が好調であり、沖縄への旅行は鈍化の傾向である。7月以降は石垣空港への直行便が季節運航されるため、石垣方面の旅行商品は本島に比べて好調である。

名古屋

円安の影響により海外旅行から国内旅行へ需要がシフトしており、沖縄方面への旅行もやや増加し前年並みを維持した。石垣空港開港以来の中部－石垣間の直行便も好調に推移している。トップシーズンは航空会社及び旅行会社ともにPRに力を入れており、また、7月以降中部－那覇路線が増便となることから、好調を維持する見込みである。

台湾

円安の影響で訪日旅行全体が好調ななか、既存路線の増便や石垣路線の新規就航により沖縄方面の旅行も好調であった。6月から9月にかけて、旅行社の座席確保が困難なほど、週末のエアライン予約状況が好調で、航空路線の増便や機材大型化により順調に推移していくと予想される。

韓国

5月は祝日による連休及び円安の影響で個人旅行の需要が持続し、好調に推移した。ドラマ等の影響で沖縄観光の認知度が上がり、今後の旅行需要の伸びが期待できる。今後は6月から8月にかけて連休が多く、7月には学生が夏休みに入ることから、若年層及び家族向け旅行を中心に引き続き好調に推移する見込み。

中国本土・北京

訪日旅行商品の販売状況が回復傾向にあるが、沖縄方面への直行便が運休中のため、旅行商品の単価が高く、現在は個人旅行客が中心となっている。6月も状況に変化はないとみられるが、7月の直行便再開に向け、旅行社が団体旅行商品の販売を開始しており、若干の回復が期待できる。

中国本土・上海

旅行会社による訪日商品PRが小規模であるためか、団体旅行は依然として動きが鈍いが、もともと落ち込みの少なかった個人旅行は回復傾向にある。6月から中国東方航空の那覇路線が増便となったことから(週4便→週7便)、個人旅行客を中心に増加が見込まれる。

香港

5月は円安の影響に加え、休日や週末を利用した旅行需要が高く、個人旅行客を中心に好調に推移した。航空便の搭乗率も引き続き安定している。6月中旬からの夏休みシーズン突入に伴い、学生やカップルなどの個人旅行の需要が増加するのに加え、団体旅行客の伸びも期待でき、好調に推移する見込み。